
ノンカピスコ・闇の声

天野 涙

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ノンカピスコ・闇の声

【Nコード】

N0724E

【作者名】

天野 涙

【あらすじ】

舞台俳優の拓也は、ライバルマサルにいつも役をとられて悔しい思いをしていた。その彼に、中世の歌手の霊がとりつく。どうやらマサルに憑依してる霊と昔ライバル同士だったようだ。拓也はその霊の支援で、主役を射止めるが・・・

もう少し、声が高くできれば、もう少し、声が遠くに届けば
今度のオーでシヨンで

あの男に勝てるのに、あの役を射止めることが出来るのに・・・

拓也はそう思っていた。

劇団で同期のマサルは、最近めきめきと頭角を現し注目を集めている。

今度の舞台でも、準主役の役を、マサルと拓也で争うカタチになっていた。

主役は、看板俳優の穰二が握るとしても、
今回はどうにもマサルには譲れない。

もしこの役を逃したら、もう夢は諦め 実家の家業を継ぐことにしようかと

頭の隅で思う。

（その方がいい。諦めもつく）

しかし、せっかく徐々に評価もされながらも、役に恵まれないジレンマ。

いつもいいところを、マサルに持っていていかれてる気がしてならなかった。

（次は負けられない、どうしても・・・）

そう思いながら、深夜 一人で練習していた。

台本は何度も読んで、ボロボロ。
今仮に主役に抜擢されても、空でせりふが言える自信はある。

『ダメだ、ダメだ、そんな声じゃ。』

不意に後ろから声がした。

振り返ると、誰もいない。空耳か？不審に思っていると、目の前の鏡に人の顔が写る。

「お前は誰だ！？」

『俺か？俺はカストラートのエドさ。』

（カストラート？）

中世ヨーロッパで普及した去勢した男性歌手だ。19世紀には衰亡したとされる。

人為的に男性ホルモンを抑制し、
声変わりを無くされた天使の声を持つ男性歌手の一人なのか。

『ずいぶん、苦労してるようだな。』

エドは少し小太りな顔を、笑いをこらえるように不気味に揺らす。

「ああ、何が可笑しい。」

『いやなに・・・お前のライバルにはな、強い助っ人がついてる。』

「ええ？どんな奴だ？」

『俺と一緒に、カストラートのジーノだ。昔から俺の知り合いだよ。』

「え？」

『最近、お前のライバルは調子いいだろう？ジーノが手助けしてやつてんさ。』

なので俺はお前につこうかと思って、でてきたわけよ。』

マサルがこの所急に上手くなったのは、そのせいなのか……。拓也は、呆然とする。どうやら、エドとジーノもライバル同士だったようだ。

そして互いに、拓也とマサルについて、また競い合いたい様子。

『よう、どうする？ 今度オーディションとやらがあるんだろ？』

「ああ、助けてくれ。お願いだ。」

鏡の中のエドは、満足げに笑う。

『俺に任しておけ。絶対お前に勝たせてやる。』

そう言うと、エドの顔は見えなくなった。

拓也は、まだ夢の中にいるようで、にわかには信じられなかった。

しかし、オーディション当日

拓也の歌に、皆がざわめいた。幅広い音域を求められる難しい課題曲を

見事に歌いこなし、喝采をあびた。

それには拓也自身が一番驚愕する。

（あの男の言ったことは本当だったのか）

そして文句なく、全員一致で準主役を拓也が射止めたのだ。悔しがるマサルを横目に

拓也は、初めて日の当たる場所に躍り出た気分だった。

しかし・・・事はそのまままで終わらなかったのだ。

主役の穰二が、練習中に大けがをする。舞台上の大階段から転げ落ちた。

足を骨折、おまけに自慢の顔も大きな傷を負ったのだ。

とても今回の舞台には間に合わない。

そこで準主役の拓也が主役に、マサルが準主役に決定したのだ。

（何かおかしい・・・???）

拓也は釈然としない。もつと正当に主役を射止めたかった。

『よかったな。いきなり主役じゃないか。』

「ああ、でも、お前の仕業だろ？穰二のケガは。」

『ふふふ。どうせやるなら、主役級でないと面白くないからな。』

「俺は、そんなこと頼んでない。」

『ばあか、だからお前はダメなんだ。栄光を掴むためには、人を蹴落とすくらいでないと上には上がれないぞ。』

「・・・」

『ジーノも俺に気づいたようだから、これから本当の勝負だ』

エドはそう言うともた消えた。

そして彼が言うとおり、舞台で拓也とマサルの息詰まるような応戦が始まった。他の団員も二人の演技に呼応し、緊張感あふれる舞台に仕上がる。

舞台は話題になり、各紙から賞賛され、拓也は『新星誕生』ともてはやされる。

しかしその頃には・・・

拓也自身はエドに心も体も支配され、心のバランスを崩していた。どこまでが自分か、エドがわからない。日に日に衰弱する気がする。

『おい、明日は千秋楽だな。』

「ああ・・・やっと終わる。」

拓也は深いため息をつく。強い疲労感を感じた。エドはおかまいなく話を続ける。

『明日千秋楽終わったら、お前、アイツを殺せ。』

「ええ??」

『俺はジーノに、毒を盛られて殺害されたのさ。今度は俺が奴をやる番さ。』

「・・・」

『次も主役やりたいだろ?俺の言つとおりにするんだ。』

「ああ、どうすればいい?」

拓也はもう、後戻りできなくなっていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0724e/>

ノンカピスコ・闇の声

2010年10月20日02時44分発行